



VALQUA GROUP
CSR REPORT
2015



日本バルカー工業株式会社

「ハード&サービス」で 社会になくてはならない存在を目指して



バルカーグループのCSR

企業が持続的に成長し、かつ社会の発展に貢献していくためには、社会やお客さまの課題解決につながる「価値を創造し続ける」ことが何より大切であると私たちは考えております。私たちの社名であるValqua(バルカー)にも、Value(価値)とQuality(品質)に対するあくなき追求への思いが込められているのです。

この『Value & Quality(価値の創造と品質の向上)』を基本理念とし、さらに従業員に理解し実践しやすくしたものが、企業理念『THE VALQUA WAY』です。これが当社グループのCSRの基盤となっており、そこから生まれたのが独自のCSRコンセプト、つまり『Collaboration with Stakeholders(ステークホルダーとの協働)』『Superior Quality(第一級の品質)』『Rule First(ルール最優先)』です。

当社グループのCSR活動とは特別なものではなく、日々の業務活動そのものなのです。

社会とともに成長する 「顧客感動企業」を目指して

当社グループのモノづくりは、1927年にスタートいたしました。

それ以来私たちは、シールエンジニアリングのパイオニアであることを自負し、そこから生まれる使命感を胸に、創業以来培った「モノとモノをつなぎ、漏らさない」シール技術や独自のサービスで、世界の産業基盤と人々の生活を「縁の下の力持ち」として支えて参りました。

しかし、技術が進化し、産業構造や環境が変化

する中で、私たちに対する要請もその中身が変わり続けています。それは、私たち自身が常に先んじて自己改革を図らねば、社会的な存在意義を失ってしまうことを意味します。

パッキン、ガスケットなどのシール製品や機能樹脂製品などの産業資材は、プラントの安全な操業や機器の確実な作動に欠かせないものです。しかし、単にシール製品を製造・販売するだけでは、社会的要請に応えているとは言えません。

今、私たちは、製品(Hard)にサービス(Seal Engineering Service)を加えて顧客価値を創造する企業、すなわち『H&S企業』へ脱皮し、社会をさらに良い方向に変えていくことを目指しております。

それを具現化したのが特集で取り上げている“シールトレーニングセンター (STC)”による新たなサービスです。

STCは既に国内外の多くのお客さまに活用いただいております。今後もカリキュラムの拡充や設置拠点の増設を進めて参りますが、当社グループが考える『H&S企業』への脱皮に向けた取り組みは、この限りではありません。これからも私たちは常にお客さまの視点で時代の変化とともに真に求められている価値を機敏に察知、追求し、永年培ってきた技術とサービスを土台とした独自のハード&サービスの継続的な開発と提供により、ステークホルダーの信頼と期待に応えて参ります。

年齢などにとらわれずに能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めて参りました。

2015年度よりスタートした第7次中期経営計画“New Valqua Stage Seven (NV・S7)”においては、この取り組みをさらに推し進めるべく、「グループコア人材の開発と人材ダイバーシティの推進」を主要戦略の一つとして掲げ、従業員の意識改革や制度の整備などに向けた施策を速やかに実行しております。

特に人材のダイバーシティ化は、企業として社会的要請に応えるという義務を果たすだけでなく、事業環境が世界規模で激しく変化する中で持続的な成長をしていくための不可欠な要素としてとらえております。グループ全従業員がそれぞれのバックグラウンドを活かして自らの価値を高め、バルカー人としての誇りとやりがいを持続けることで、企業として成長して参ります。

また、昨今、企業の法令違反の報道が散見されますが、私は常日頃から、『THE VALQUA WAY』には、厳しく律するという「基盤」の姿勢があつてこそ、夢やビジョンに向かって「チャレンジする」行為が可能になると従業員に伝えております。経営理念の一つである「正正堂堂と」を従業員一人ひとりが強く意識し、その行動をもって、当社グループが皆さまから信頼し続けられるように努めて参ります。

多様な人材が支える『Value & Quality』

私たちは、「人材」こそが最も重要な経営資源であると位置付け、従業員一人ひとりが国籍・性別・

2016年2月
代表取締役社長 兼 CEO

龍澤 利一

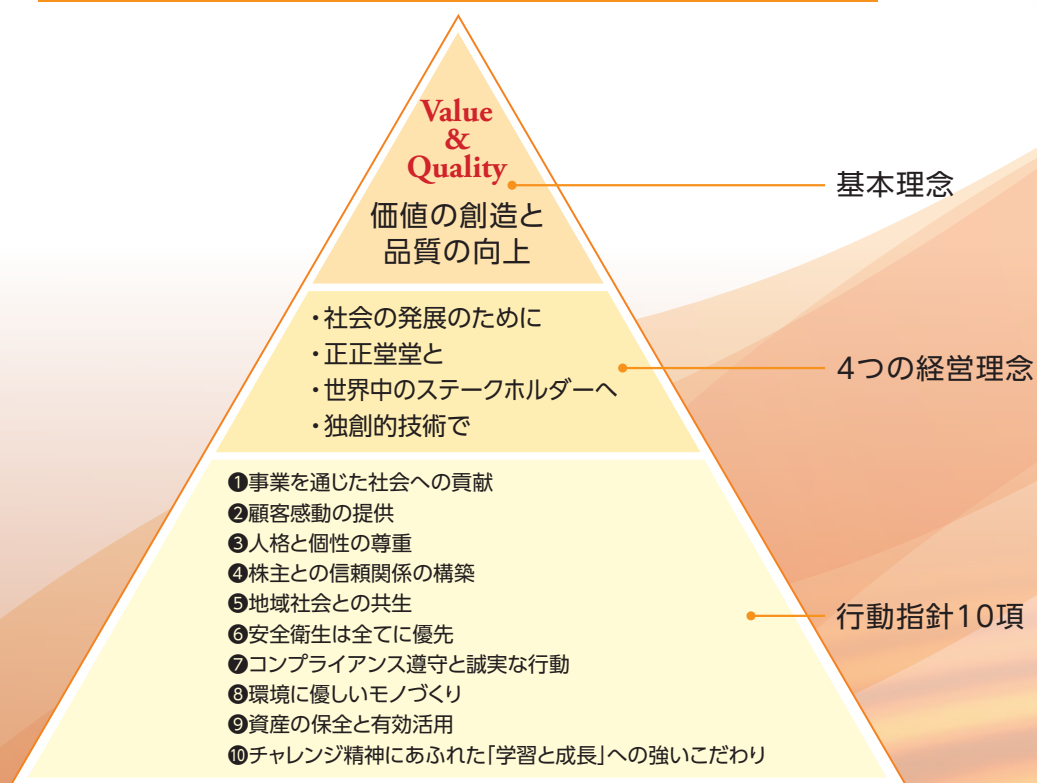
持続可能な社会のために

バルカーグループは、企業理念『THE VALQUA WAY』のもと、
たゆみない成長を目指して日々挑戦を続けていきます。

そして、創業以来培った技術とサービスで
社会とお客さまの課題解決につながる価値を創造・提供し続け、
持続可能な社会のために貢献して参ります。

人材・雇用の
多様化

企業理念 THE VALQUA WAY



コーポレート
ガバナンス

企業倫理

Collaboration with Stakeholders

ステークホルダーとの
協働

全ての関係者と
進化した連携の
追求

Superior Quality

第一級の品質

世界最高水準の
差別化技術・
品質の確立

Rule First

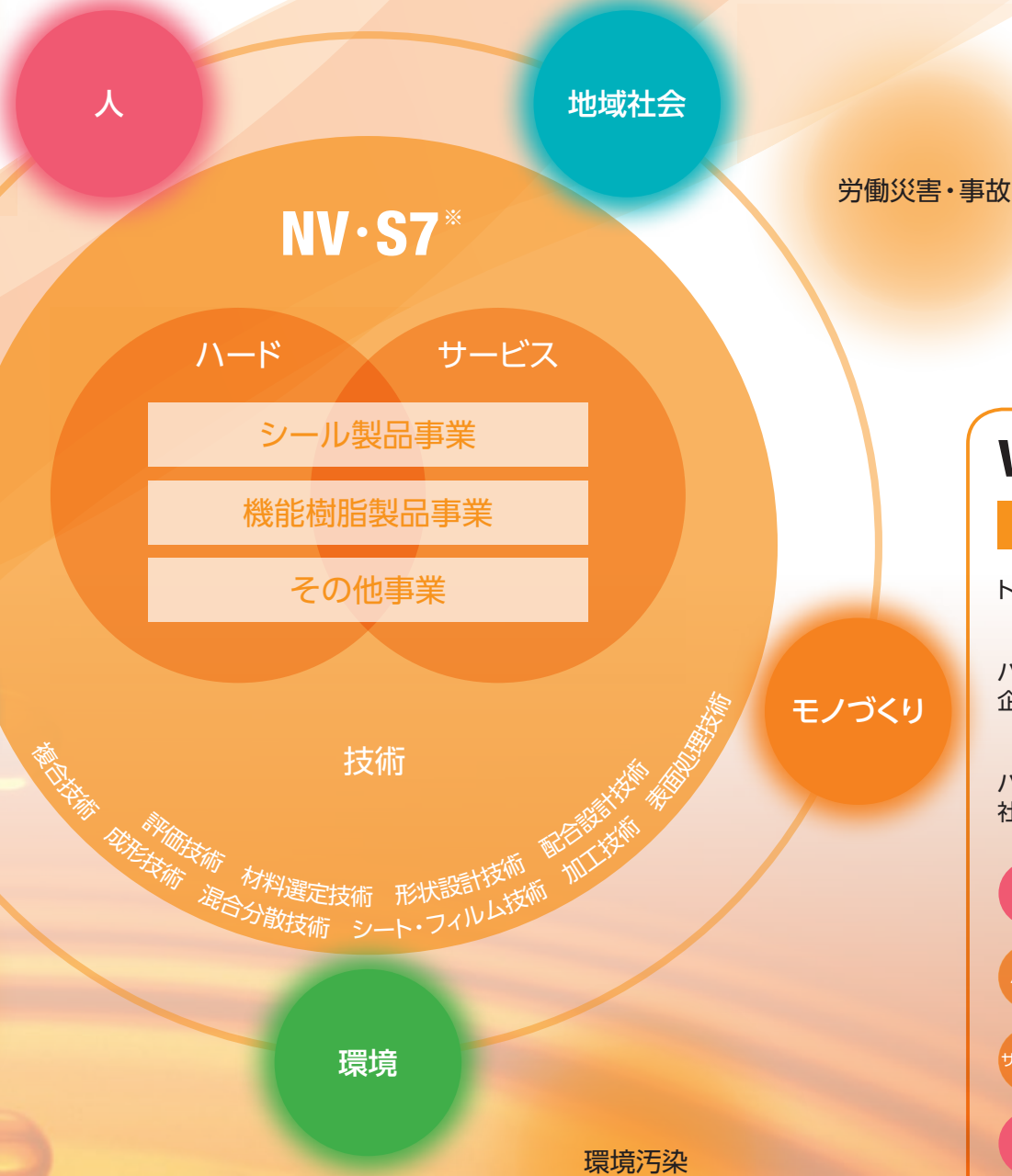
ルール最優先

社会の一員としての
コンプライアンス重視

CSRコンセプト

CSR重点活動項目

バルカーを取り巻くさまざまな社会的課題に対し、5つの重点項目を決めて活動に取り組んでいます。



バルカーを
取り巻く
社会的課題

Value バルカーの提供価値

Contents

トップメッセージ	1
バルカーグループの使命と 企業価値の創出	3
バルカーブランドと 社会とのかかわり	5
人 特集1 ダイバーシティ推進	7
ハード 特集2 省エネ ～ LFR SEAL [®] ～	9
サービス 特集3 安全操業 ～ STC ～	11
人 人材育成と職場環境づくり	13
環境 環境保全への取り組み	15
モノづくり 安全・品質への取り組み	19
地域社会 社会貢献活動	21
コーポレートガバナンス CSR マネジメント体制	23
会社概要・ネットワーク	25

※第7次中期経営計画
詳細はホームページへ

バルカーブランドと社会とのかかわり

A 宇宙ロケット・航空機



メタル中空Oリング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高性能ガスケットで、ロケットや人工衛星のほか、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

B 医療機関



ふっ素樹脂熱収縮チューブ

医療機器や電子機器、電線などに用いられているチューブで、ふっ素樹脂

を被覆することにより絶縁・耐熱・保護強度を付加させています。

写真提供：Zeus Inc.

C 自動車



オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット

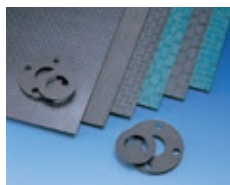
金属板に特殊紙を貼り付けた製品で、AT作動に欠かせない油圧コントロールバルブに使用し、装置の機能向上を補完する役割を担っています。

D 船舶



グランドパッキング

貫通軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、主に液体の流量をコントロールするバルブや回転ポンプで使われています。



ジョイントシートガスケット

幅広い液体に対応する性能を持つ汎用ガスケットです。船舶・プラントなどのほか、住宅設備など

あらゆるシーンで活躍しています。

E 変電所



ふっ素樹脂加工品

高い絶縁性能を活かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。

F 工場・オフィス



LED照明

低消費電力で長寿命が特徴の製品です。豊富なラインアップで、幅広いニーズに対応可能であり、環境負荷の低減にも貢献しています。

G 携帯電話基地局



PTFE基板

PTFEの優れた電気特性と耐候性の機能を活かした基板材料がアンテナ機器周辺で使用され、高速・大容量通信の実現に寄与しています。



H 製鉄プラント



高温対応シートガスケット

従来のシートガスケットの性能を大きく上回る画期的な製品で、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。

うず巻形ガスケット

金属の補強をつけた製品で、高温・高圧力で運転されるプラントの安全操業を支えています。

回転軸シール

摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。(詳しくは9ページをご覧ください)



こんなところでバルカーの製品が活躍しています

① シールエンジニアリングサービス



STC&STCデモカー

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。(詳しくは11ページをご覧ください)



② 化学プラント



ふっ素樹脂ライニング製品

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を活かして、中を流れる流体の純粋性を保っています。

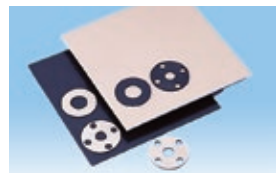


ライニングボールバルブ

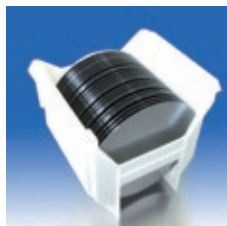
化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。

ふっ素樹脂ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や精製機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。



③ 半導体・液晶パネル工場



再生シリコンウエハー

半導体の製造過程で使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで清浄度高く新品同様に再生・提供し、環境負荷低減に貢献しています。



PTFEフィルム

耐薬品性・耐熱性・低摩擦係数など優れた特性を持つ高機能フィルムで、液晶ディスプレイなどの製造時に欠かせない製品です。



高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。



ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。

④ 太陽光発電



太陽光発電事業

九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生み出し、地球環境の保全と地域への貢献につなげています。

⑤ 建設機械



Oリング

動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。



ピンダスト・スラストワッシャー

ショベルカーなどのアームの可動部に組み込まれ、ピンダストは土砂の侵入防止と内部封入グリースの流出防止、スラストワッシャーはボスとブランケットの隙間調整をしています。

⑥ ポータブルメディア



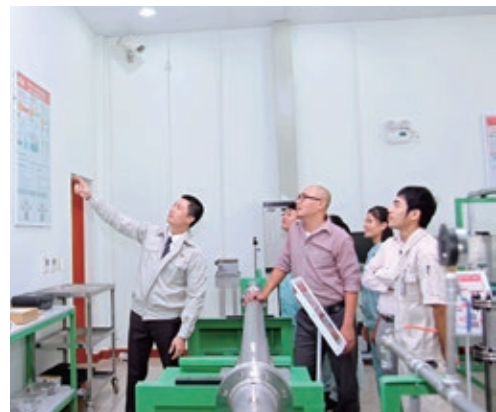
ふっ素樹脂テープ

高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。

1 ダイバーシティ推進

THE VALQUA WAY- 未来へと導いてくれた道

バルカーベトナム 製造部 製造部長
Man Chi Trung(マン・チ・チュン)



■ プロローグ:バルカーベトナムと歩んだ8年間

バルカーベトナムの2015年度は本社の信頼を背景とした投資が進められ、グループ生産拠点の最適配置を目的とした生産移管など大きな変革の年を迎えています。

2008年の設立から8年が経過しようとしていますが、その間多くの困難や失敗などがありました。しかし、それは同時にチャレンジ精神と努力で克服してきた歴史でもあります。

設立当初からともに成長をしてきたその8年を振り返ります。

■ バルカーとの出会い

私は2002年から2008年にかけて山口大学(修士課程3年)、鳥取大学(博士課程3年)の留学生として、機械設計や製作といった日本の科学・技術に関する知識を学びました。この中で最も貴重な経験は、日本的なプロフェッショナルとしての考え方や働き方(仕事の流儀)とともに、豊かな文化にふれる機会が得られたことで、日本とのふれあいの中で深い感銘を受けた私は、ベトナムに戻った後には日系企業に勤めることを心に決めていました。

幸いなことに、大学の就職案内掲示板に日本バルカーの人材の募集を目にし、日本バルカーがベトナムに生産会社を設立しようとしていることを知りました。

ベトナムへの帰国後、面接試験を経て、念願の日系企業それも一部上場企業である日本バルカーの子会社であるバルカーベトナムに採用していただけることになり、以来8年間バルカーベトナムとともに歩んで参りました。

■ 学習と成長

日本への留学で、日本の先端技術の知識を得ることができましたが、バルカーベトナムで生産する製品は、80年を越える歴史の中で蓄積された英知の集大成とも言える製品であり、技術でしたので、今まで学習してきた知識などでは対応できないものでした。そのため、これまでの8年間は、さまざまな困難や悩みなどに遭遇してきた歴史でもありました。

入社当初は、品質管理を担当しました。社名の由来であるValue&Qualityに恥じない製品を生産し、お客さまへお届けし、お客さまの信頼に応えなければならない、という責任感からプレッシャーに押し潰されそうにもなりました。

しかし、私は歴代のMD*や技術担当の日本人駐在員、出

張者などから熱心な指導をしていただき、バルカー製品の知識や製造プロセスに関する理解を深めてきた訳ですが、私が少しでも成長できているとすれば、それを支えたのは、それら技術的な理解ではなく、紛れもなく『THE VALQUA WAY』の理解の深化であった、と自信を持って述べるができます。

瀧澤社長には、何度もベトナムを視察する機会を設けていただき、その都度、「顧客を意識したモノづくりができていない」「バルカーベトナムの強みとは何か、をしっかりと考え、実行し、私にここで生産させたいと思わせる工場にしてほしい」など、たくさんのお叱りの言葉と指導をいただいています。

そのような私に、『THE VALQUA WAY』の理解をさらに深めるような出来事がありました。

それは、国家の重要なプラントであるベトナムの第一精油所(BSR)における、2014年5月の大規模定期修繕での出来事です。安全にそして安心してガスケットを使用するためには、適正なガスケットの締付けおよびその管理が重要なポイントです。お客さまからは、大規模定期修繕期間中に現場での指導を要請されました。

日本の技術者の指導のもと、現場でお客さまへの指導を行いました。当初は、バルカーに何ができるのか、と現場の雰囲気は懐疑的なもので最悪でしたが、暑さも加わり過酷な環境のもと、誠心誠意指導に当たる中で、徐々にその現場の雰囲気は変化し、工事終盤には信頼へと変わっていました。

操業再開後、一箇所の漏れもなく、私の手を取って喜び、感謝の言葉をかけてくださるお客さまを前にした時が、『THE VALQUA WAY』が腑に落ちた瞬間でもありました。

このような日々の出来事を通じた気づきや、瀧澤社長をはじめとするバルカーグループの継続的なそして一貫した指導により、『THE VALQUA WAY』は、私にとっては単なる理念ではなく、常に無意識に共存するものになりつつあるように思います。

そして、『THE VALQUA WAY』の理解のプロセスの中で、私はバルカーという会社が好きになり、長期的に学習と成長を続けることでグループそして社会へ貢献できるようになりたいという思いが日に日に強くなっています。

■ 今後の目標と夢

NV・S7の初年度である2015年度、バルカーベトナムはグループ生産拠点の最適配置を目的とした生産移管や、顧客接点の強化を目的としたハノイ支店の設立などに取り組んでいます。

そしてこの変革の年に私は製造部長を拝命し、さらに大きな責任とプレッシャーを感じながら、日々、『安全衛生は全てに優先』を実践する中で、生産の改善活動に取り組んでいます。

大きな責任とプレッシャー以上に、バルカー人として働くことのできる喜びを感じながら、この喜びを分かち合える部下の育成にも力を入れています。

まだまだ、未熟で学習と成長が必要な私ではありますが、バルカーベトナムの社員とともにバルカー人として成長し続け、『THE VALQUA WAY』を実践し続けることが私の夢です。

※MD：マネージング ディレクターの略で子会社社長職
(本稿は本人の日本語執筆によるものです)



“縁の下の力持ち”として社会を支える バルカーのシール製品

～回転用ローフリクションシール LFR SEAL®～

お客さまの要望に応える製品開発

バルカーのシール製品は、プラントの安全操業を支えるとともに、さまざまな生産財や消費財の生産時に活躍する産業機械にも数多く使用されてきました。

ほとんどの場合、シール製品は機械の中に組み込まれていて、目立つ存在とは言えませんが、あらゆる産業機械の確実な作動を支え続けているのです。

産業が高度化するに連れて産業機械は進歩の歴史を刻んできましたが、今日のシール材に要求される性能もかつてのそれとは次元が異なる厳しい水準となっています。

ある技術的課題を乗り越えるために『相反する機能』の両立が求められることは往々にしてありますが、バルカーは永年そのテーマに取り組み、多くのお客さまが抱える課題を解決し、感動をともにしてきました。

その一例としてここでは、「エラストマー※と各種材料の複合化技術」と、それぞれの材料特性に合わせた「シールの形状設計技術」を活用することで、『相反する機能』を両立させた回転機器向け複合製品『LFR SEAL®』を紹介いたします。

※エラストマー：ゴムの中でも特に高い弾力性をもつ素材

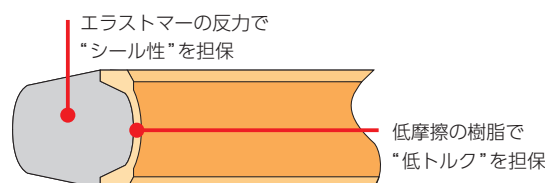
回転機器向け複合製品『LFR SEAL®』

LFR SEAL® で実現した『相反する機能』の両立は、“シール性”と“低トルク(軽く動く)”です。一般的にシール性能を向上・安定させるには、強く押し付けることが有効な手段となりますが、回転機器のような運動する箇所のシールでは、強く押し付けると高トルクとなるために機器の動作が重くなる問題がありました。

その課題を解決すべく開発された、LFR SEAL® は、低摩擦性に優れた樹脂をエラストマーに複合化した素材を、独自の形状設計技術に基づいて加工したユニークな製品です。

その特徴は“シール性”と“低トルク”以外にも、摩擦軽減の効果による“長寿命”、ならびに、エラストマーと樹脂を一体成形したことによる“高耐圧性”と“良好な装着性”にありますが、さらに“低コスト”も実現しています。

● LFR SEAL® イメージ図



“低トルク”による節電効果

回転機器に使用されるモーターは、大きな力を必要とする場合、多くの電力が必要となりますが、LFR SEAL® は

“低トルク”を実現したことにより、電力の消費を抑える省エネルギーに貢献することができました。

下の表は、LFR SEAL® と従来の製品とを比較したFEM解析*の結果による、節電効果の例です。

	バルカー従来品			開発品
	O-ring	X-ring	SLIPPER SEAL®	LFR SEAL®
トルク[N・m]	41	44	44	19
電力[kWh]	52	55	55	24
LFR SEAL® 比[kWh]	+28	+31	+31	—

従来品比
1/2以下

〔算出条件：仮定〕

FEM解析値、圧力7MPa（油潤滑時）、シール2個あたり、軸径φ50、回転数200min⁻¹

注：表中の数値は、あくまでもFEM解析によるシミュレーションに基づくものであり、実際の数値とは異なり誤差の生じる可能性があります。

※FEM解析：有限要素法解析

こんなところで活躍

LFR SEAL® は、日本の高い技術で世界をリードする工作機械のマシニングセンタをはじめ、タイヤ成形機など、さまざまな産業のロータリージョイント部のシールとして活躍して

います。今後は、真空や食品機器、油空圧機器などにも活躍の場を拓けていくことが期待されています。

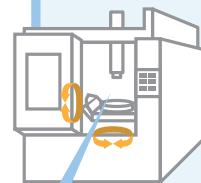
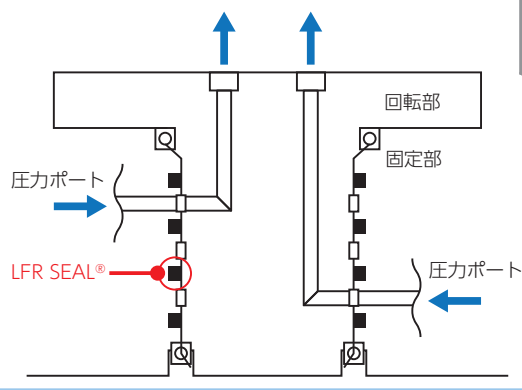
●現在

- ・工作機械産業…… マシニングセンタ
- ・タイヤ産業……… タイヤ成形機
- ・自動車産業……… ロータリージョイント
- ・製鉄産業……… ロータリージョイント
- ・食品産業……… ロータリージョイント

●展開

- ・真空用途……… ロボット関節部、生産設備の回転導入部など
- ・食品機器用途…… 攪拌機、自動生産ライン回転/旋回部など
- ・油空圧機器用途… 油圧シリンダ、射出成形機、コンプレッサー、モーター、乾燥機（ドライヤー）、各種ポンプなど

固定部から回転部に圧力を供給する
ロータリージョイントに使用されている



Voice

研究開発本部
開発部
永野 晃広

製品が完成し、お客さまがLFR SEAL® を使用する場に立ち会わせていただいたところ、低トルクであることの驚きと感動の声を聞くことができ、開発者としての喜びを感じました。ここに至るまでの開発過程で苦労してきた試行錯誤が報われた瞬間でした。今後も縁の下の力持ちとして社会を支えるシール製品を開発していきたいと改めて実感しました。

シールエンジニアリングのサービスで 顧客感動企業を目指す

～シールトレーニングセンター&デモカー～

お客さまの抱える不安と課題

プラントにおける高圧ガス事故のうち、シール材に起因するものが20～25%を占めているという調査結果があり、さらにその中で漏えい事故の原因として施工不良・選定不良が80～90%を占めています。こうした背景には、日本国内の新規プラント建設の減少やメンテナンス間隔の長期化に伴う作業機会の減少、団塊世代の引退などによる技術継承問題などがあります。

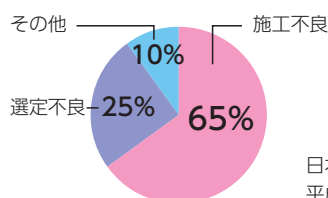
●高圧ガス事故の原因別による分析

	平成24年	平成25年	平成26年
設備の設計、製作の不良			
設計不良	35	38	53
製作不良	11	14	13
施工管理不良	10	23	16
計	56	75	82
設備の維持管理の不良			
腐食管理不良	65	77	66
検査管理不良	65	28	17
点検不良	8	18	12
締結管理不良	28	23	29
シール管理不良	31	33	21
容器管理不良	11	19	16
計	208	198	161
組織体制の不良			
組織運営不良	0	0	0
操作基準などの不備	13	15	13
情報伝達の不備	1	1	5
計	14	16	18
ヒューマンファクター			
誤操作・誤判断	69	50	27
不良行為	13	4	6
計	82	54	33
総計	360	343	294

高圧ガス保安協会「高圧ガス関連事故集計」（平成27年7月発表より）

※ シール材に関連する事故原因

●漏えい原因調査結果（石油精製・化学）



日本バルカー工業(株)調査結果
平成20年～平成25年日本国内

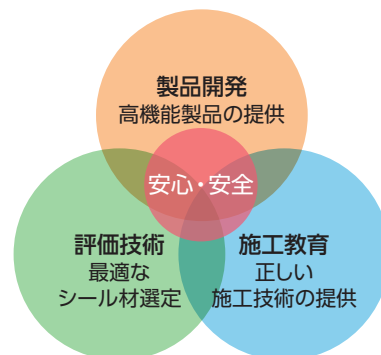
安全操業を支えるシールトレーニングセンター (STC: Seal Training Center)

バルカーグループは、シールメーカーとして独自に蓄積してきたノウハウと、実際の現場から知り得た知見を合わせ、シール材を正しく使うための『独創的技術』として体系化し、それを基にした「シールエンジニアリングサービス」を提供する取り組みを始めています。

「シールエンジニアリングサービス」は、“製品開発”、“評価技術”、“施工教育”を3本の柱としていますが、そのうち実際にシール材を取り扱うお客さまへの「施工教育」を目的として設立したのが、体験型研修施設「シールトレーニングセンター（STC）」です。

STCでは、“理論(座学)”と“実践(実技)”を融合したプログラムにより、「シールとは何か?」をアタマとカラダで学べる

●バルカーグループの取り組み



●STCの所在地



ようにしています。

なかでも実技では、現場の配管フランジを模擬した実習に加え、普段見ることができない締付け後のシール材の状態をリアルタイムに確認することができる内容も用意し、現場施工でよく起こるトラブルとその解決手段を学ぶことができます。

カリキュラムを受講いただいた現場経験の長いお客さまからも「ここで初めて知ったこともあった」という声が寄せられるなど、STCは“シール材のプロ”を養成するため、より実践的で効率的な人材育成の場を提供しています。

STCは、国内ではM・R・Tセンター（東京都町田市）ならびに奈良事業所（奈良県五條市）に、海外では、中国、台湾、ベトナム、タイに設置し、韓国にも設置を予定しています。また、国内ではデモカーによる体験型デモンストレーションによって、全国のお客さまに体験いただいております。『顧客感動の提供』の理念のもと、今後もさらなるカリキュラムの充実と拠点の整備を進め、バルカーグループだからこそできる課題の解決にチャレンジし続けます。

●シールトレーニングセンターとは

ガスケット施工
保管方法、運搬方法
据付け方法、締付け方法
保全方法

適切な
シール施工

人材の育成

プラントの
安心・安全

最適な
シール選定

使用条件
温度、圧力、
液体、
フランジ形状・・・

座学

シール材の基礎知識

- ガスケットの機能
- ガスケットの種類
- 選定方法
- 施工理論 etc



実技

プラント施工・対応方法

- 締付け方法
- クリープ緩和
- 圧縮破壊
- シール性 etc



STC 受講者インタビュー

バルカーグループのノウハウを活かした選定、取り扱い、施工の3つの課題に対する、座学とトレーニングマシンを駆使した実践型シール講座はとても勉強になります。この研修施設で

トレーニングを受けることは、我々ユーザーの安心・安全操業に大いに役立つと考えています。
(化学メーカー勤務)

STC 受講者アンケートより

- 幅広い項目について講義を受けることができた
- 実技講習では視覚的にガスケット性能が分かる内容になっており理解しやすかった
- (座学で)学んだことがすぐに実践することで身に付き易いと感じた

- 今後の業務に活かしていける内容ばかりだった
- 設計の立場でも施工上の注意点を考慮する大切さを実感することができた

デモカー体験者アンケートより

- 締付けトルクを数値で確認でき分かりやすかった
- 予想以上に自分の締付けが低くて驚いた
- 他の実習装置も体験してみたい
- 自社近傍に体験センターがあるとよい
- 受講すると技術力が向上すると感じた



人材育成と職場環境づくり

バルカーグループは、経営資源の中で最も価値のあるものとして「人材」を捉え、人材育成をグループ戦略のひとつに据えて積極的に取り組むとともに、一人ひとりの社員が、個性や働き方に合わせて能力を発揮できる職場環境づくりを進めています。

また、全世界の社員が、バルカーグループ共通の企業理念である『THE VALQUA WAY』の実践を通じ、『WAY』への理解と自らの存在価値を高めながら、顧客や社会への価値提供につなげています。

グローバル化に向けた人材育成

グローバル化に対応するため、各階層において、日本と海外との交流を積極的に図りながら、人材育成を強化しています。また、毎年、全世界の拠点から選ばれた代表者による『THE VALQUA WAY』の実践発表会を催し、『THE VALQUA WAY』の再認識と、グループ社員の相互理解を通してグローバル意識の向上に努めています。

■新入社員向け研修

―バルカー人養成道場

グローバルな環境下で『THE VALQUA WAY』に基づき行動できるバルカー人を養成するため、2014年からは国内からベトナムに場所を移し、5泊6日の合宿研修の形式としています。

言葉が通じず、風習も異なる環境下、幾多のミッションに挑みながら、自ら考え、行動し、完遂する力を鍛錬する場(=道場)として、毎年実施しています。



―新入社員向け海外研修

さらにグローバル職の新入社員には、早い段階でグローバル感覚を身に付けさせるため、入社1年目から海外拠点に派遣しています。派遣先では実際に市場や顧客などにふれ、また、現地の社員とも交流しながら、言語や文化、習慣などの違いを学び、異文化への適応力や国際社会を生き抜く力を養います。



■社内中国語講座

中国人講師を人材開発センタースタッフとして採用し、中国語講座を開催しています。入門コースから、資格取得のコースまでをラインアップし、中国ビジネスに対応できる人材の育成を進めています。中国語以外にも、語学学習支援制度を設け、社員の語学力の向上を後押ししています。



■海外幹部向け来日トレーニング

海外拠点の幹部社員を選抜し、日本に招集して、幹部として必要なスキルの習得に加え、自らが設定したテーマに基づいて学習を進めます。同時に、日本人社員も交えた社員同士の交流を深め、グループ一体感の醸成とロイヤリティの向上を図っています。



■海外拠点における人材育成

―中国では

2007年に中国人材開発センターを上海に設立して、現地に適合した教育体制の構築を目指して「底上げ」と「選抜」の両面から教育を実施しています。モノづくりの現場力を強化する取り組みが一通り終了し、現在は現地の経営幹部の育成に注力しています。

―ベトナム、タイ、韓国、台湾では

現地化に向けて、現地の部長、課長クラスの社員を対象に幹部育成に注力しています。社内での教育だけでなく、現地の外部教育機関を活用して積極的に育成を進めています。

多様な価値観と個性を尊重し 一人ひとりが輝ける環境へ

バルカーグループは、国籍・性別・年齢などにとらわれることなく、世界中の社員一人ひとりが持つ価値観や個性を尊重し、多様な人材が持ちうる力を最大限に発揮できる職場環境づくりに努めています。

■キャリアリターン制度(再復帰制度)

やむを得ない理由で退職する社員が、慣れ親しんだ職場環境で過去の経験や知識を活かす仕事に復帰できる制度を導入しています。

対象となる退職理由を結婚・出産・育児・介護のみならず、海外留学や配偶者の転勤にまで拡大し、グローバル環境下における自己研鑽や人材流動化に対応しています。

■勤務地限定制度

生活観や就労観の多様化に合わせて、柔軟なワークライフスタイルを提供するため、自らのキャリアビジョンに合わせて、勤務地の限定・非限定を選択できる制度を取り入れています。

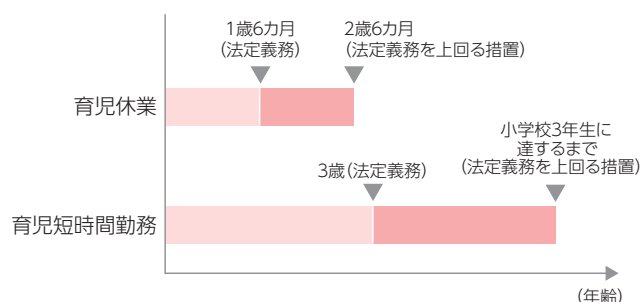
■子育て・介護支援(育児休業・育児短時間勤務・介護休業・介護短時間勤務)

育児休業は法定義務を上回る“2歳6ヵ月に達する日まで”取得できるようにしています。さらに、育児休業終了後も安心して育児ができるように育児短時間勤務の取得限度も法定義務を上回る“子どもが小学校3年生に達するまで”としています。

また、介護休業や介護短時間勤務の制度を導入しています。介護が長期になる場合は、フレックスタイム勤務を活用した柔軟な働き方、やむを得ず退職する場合は、キャリアリターン制度を利用することができます。

今後も社員が仕事と育児・介護などを両立して能力を十分に発揮できる環境づくりを進めます。

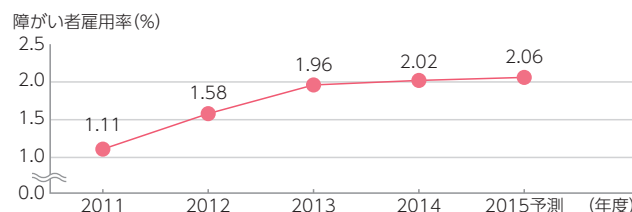
●育児休業・育児短時間勤務制度



■障がい者雇用の促進

地域との共生を目指し、地元の支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れ、働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

●障がい者雇用率の推移



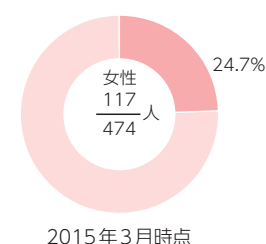
■国籍を問わない採用

国籍を問わない採用によって、多くの外国籍社員が活躍しています。新卒採用者における割合は高まっており、その国籍もバラエティに富んでいます。言語や文化の垣根を越えて協働する中で、多くの社員が新たな刺激・価値観を得ています。

■女性雇用の促進

女性の採用も積極的に行っており、全体の女性比率は増加傾向にあります。幅広い職種で多くの女性社員が活躍していますが、例えば、育児休業取得後の職場復帰率は100%(2014年)になるなど、実際に制度を活用し易い風土づくりを進めています。

●男女別構成比



Voice

海外統括部
海外推進グループ
貿易チーム
井戸川玲子

一人目は1歳まで育児休業を取得し、二人目は1歳3ヶ月まで延長して希望する保育園に入ることができました。妊娠中から復帰後に至るまで職場の方々には温かくフォローしていただき、今も働き続けることができます。時間の制約があり、子どもの体調不良などで急に休まざるを得ない状況では、周囲の理解なく仕事を続けることは難しいので、支えてくれている家族や職場の方々への感謝を忘れずに、私自身周りをサポートできるよう今後も精進していきたいと考えています。

環境への取り組み

バルカーグループは、地球環境の保全が人類共通の最重要テーマのひとつであると認識して「環境憲章」を定め、環境活動を推進しています。

温室効果ガスの排出に関しては、燃料の使用による直接排出、エネルギー起源の間接排出に加え、サプライチェーン全体の排出量を把握する取り組みを開始しました。

今後、さらに、これらの負荷を低減するための活動に努めていきます。

環境憲章および環境保全推進体制

■環境保全推進体制

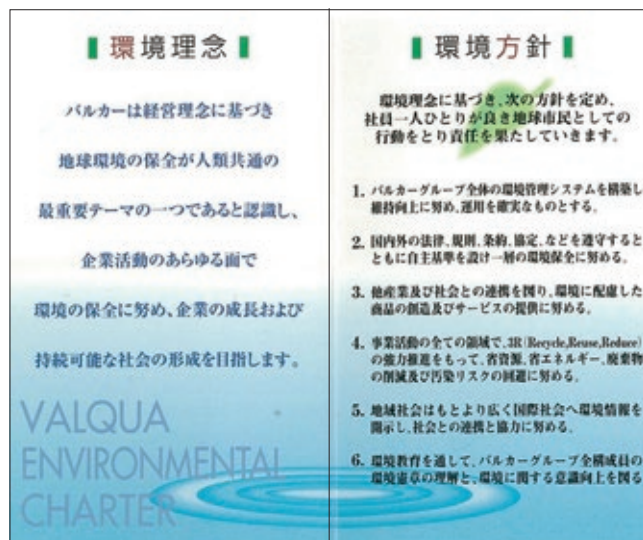
バルカーグループは環境理念・環境方針からなる「環境憲章」を定め、中期計画の経営基本方針、各年度のAnnual Policyに基づき、環境委員会にて重点項目を審議し活動を強化しています。

2014年度の環境活動方針に基づき、以下の2点を重点事項とし、それぞれの活動を強化推進しました。

重点事項

- バリューチェーンを通じた、「複合品」「ハード+サービス」の事業構造変革に環境リスクへの対策
- 各部の環境に貢献する製品・サービスの早期収益化、販売促進を目的とした2つの見える化

●環境憲章

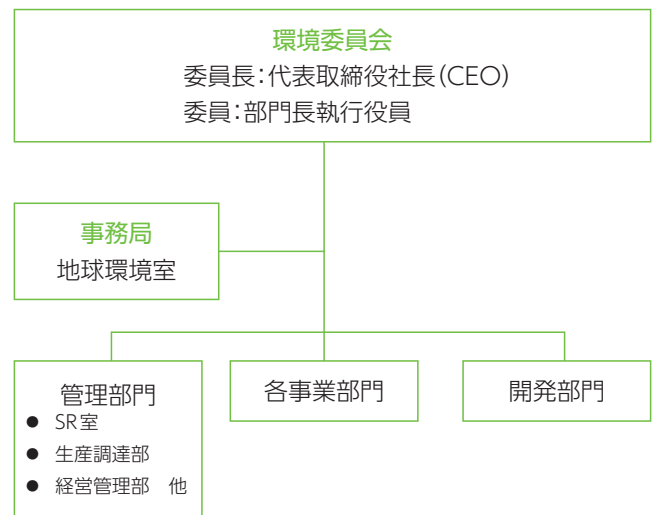


リスクマネジメントの強化

国内外生産関係会社ではISO14001システムによる環境活動を実施していますが、特に法令管理について運用レベル評価を実施しています。弱点を認識し、潜在リスクの顕在化とその予防処置により違反の未然防止を強化しています。

2014年度は環境関連の法規制に対する改善事項が発見

●環境委員会体制



各部門のミッション

- 国内外の法律・規則などの遵守
- 他産業および社会との連携による、環境に配慮した商品の創造およびサービスの提供
- 省資源・省エネルギー・廃棄物削減および環境汚染リスクの回避
- 地域・国際社会へ環境情報を開示し、社会との連携と協力に努める
- 環境教育の徹底、全従業員の環境意識向上

環境憲章に掲げた項目を展開する最高意思決定機関としてCEOを委員長とした「環境委員会」を設置しています。委員会で決定し見直しを行った方針や施策は、速やかに各部門に落とし込み、展開しています。

されましたが、即座に是正いたしました。なお、悪臭、騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

世界的にリスク管理強化が求められている製品含有化学物質については、社内規則・手順を制定し、法規制で定められた禁止物質などが混入しないよう管理を徹底しています。

環境活動取り組み事例

■ サプライチェーン全体のCO₂排出量算定の取り組み

2013年度より、環境省の実施する「環境情報開示基盤整備に向けたサプライチェーン温室効果ガス排出量算定支援」に参加し、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出算定に関する基本ガイドラインVer2.1」（環境省・経済産業省）に準拠した算定に取り組んでいます。

算定できた範囲では「カテゴリー 1（購入した製品・サービス）」がサプライチェーン全体の約8割を占めることがわかりましたが、製品性能を実現する原材料などを安易に変更することはできないため、歩留まり向上、不良削減などの既存の活動推進により、省資源化の取り組みを進め、サプライチェーンにおけるCO₂排出量把握を継続いたします。（図1）

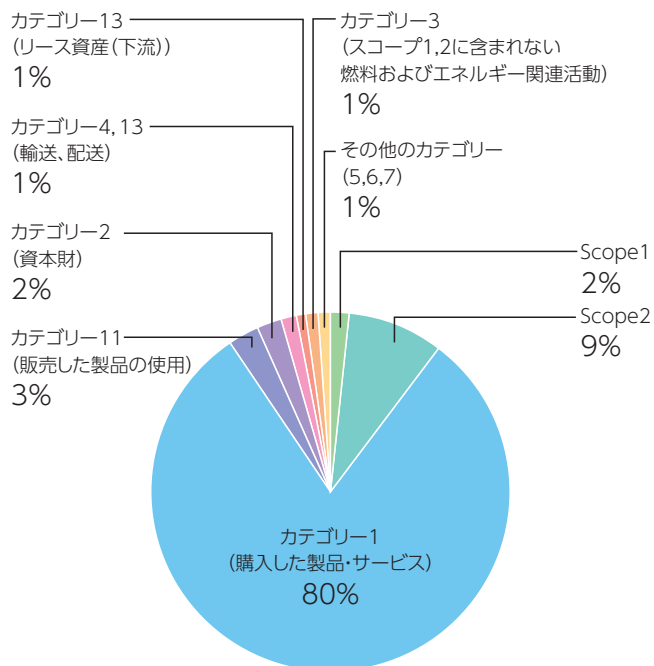
Scope1: 直接排出（自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出）

Scope2: エネルギー起源の間接排出（自社が購入した電気・熱の使用に伴う間接排出）

非該当のカテゴリー: カテゴリー 8（リース資産（上流））、カテゴリー 14（フランチャイズ）、カテゴリー 15（投資）

未算定のカテゴリー: カテゴリー 10（販売した製品の加工）、カテゴリー 12（販売した製品の廃棄）

●図1 バルカーグループのサプライチェーンCO₂排出量



■ ライフサイクルアセスメント(LCA)の取り組み

バルカーグループの製品はほとんどが装置や機械の部品であり、使用段階において環境負荷の特定ができず、LCA解析を行うことは困難です。しかし、LCAは製品の環境への寄与を把握するのに不可欠であるため、取り組みを開始しています。

たとえば、水銀灯代替用の吊り下げ型LED照明は、明らかに使用時の電力使用量が水銀灯より少なく、寿命も長いいため、直感的にライフサイクルの環境負荷もコストも少なくなることがわかりますが、MilCA^{※1}に付帯したT-E2A^{※2}を用いて、エコマップによる見える化を試みました。（図2）

今後、特集で紹介したLFR SEAL[®]などへも適用を検討しています。

※1 MilCA：正式名称：LCAシステムMilCAver.1.1

開発：産業環境管理協会

参照：MilCAガイドブック

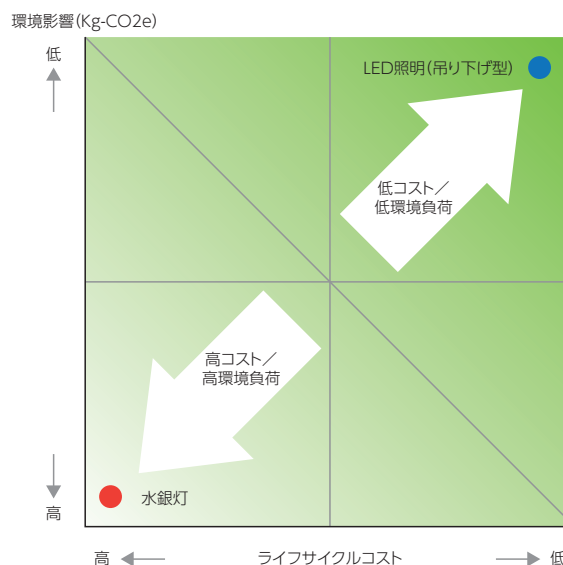
ライフサイクルアセスメント(LCA)支援ツール(ISO14040ライフサイクルアセスメント—原則に準拠)。

※2 T-E2A：正式名称：東レ版エコ効率分析(Toray Eco-Efficiency Analysisの略)

開発：東レ株式会社



●図2 エコマップ



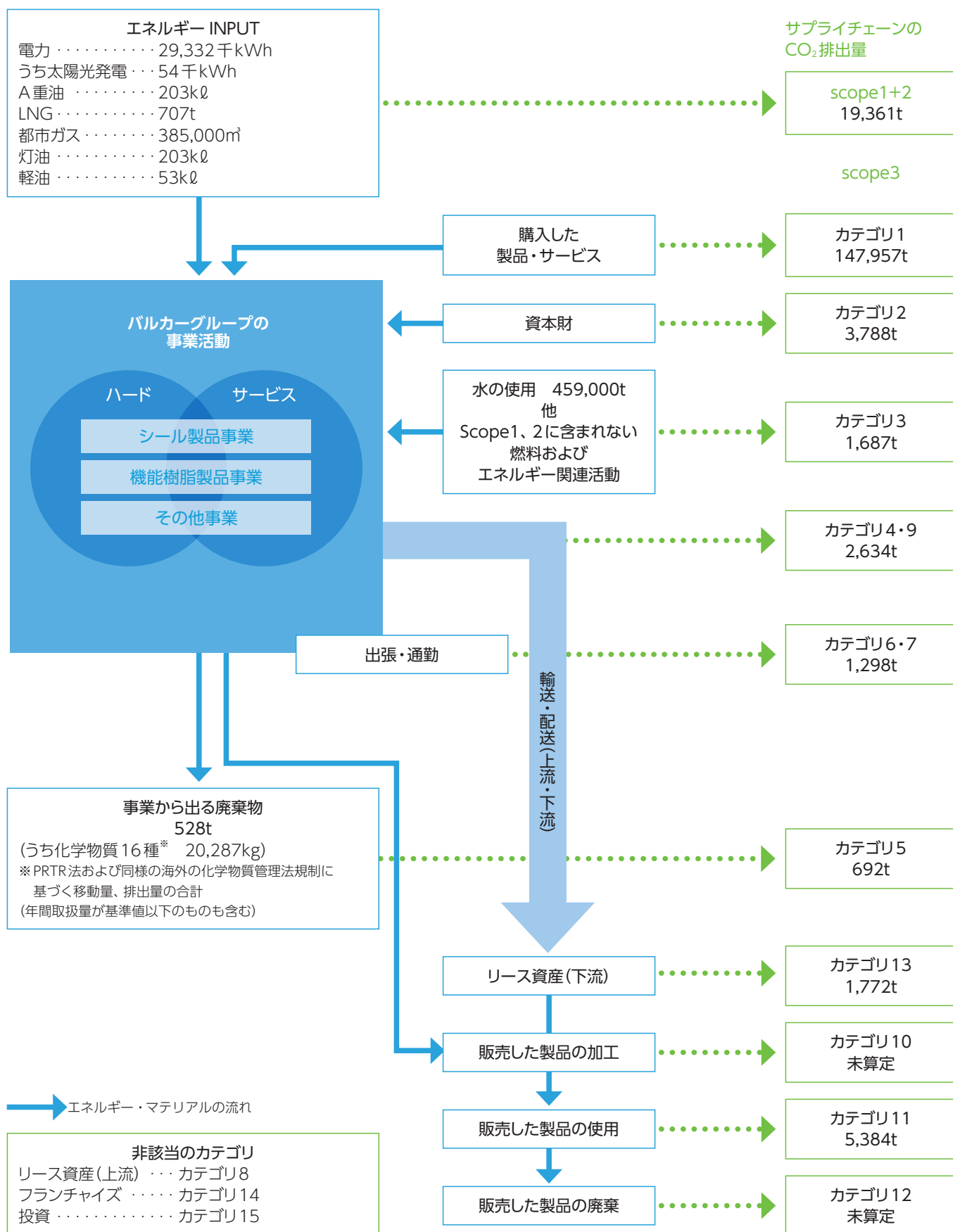
※根拠データ：インベントリーデータベースIDEA^{※3}からの引用のほか、当社グループ取り扱い吊り下げ型LED照明の製品寿命50,000時間、定格消費電力80w、標準価格。同等の明るさを持つ一般的な水銀灯の値として製品寿命8,000時間、定格電力400w、標準的な価格として60,000円を想定した。取付工事（初期、交換）はいずれも同じ費用とした。

※3 IDEA：正式名称：LCIデータベースIDEAver.1.1

開発：産業技術総合研究所、産業環境管理協会

参照：MilCAガイドブック

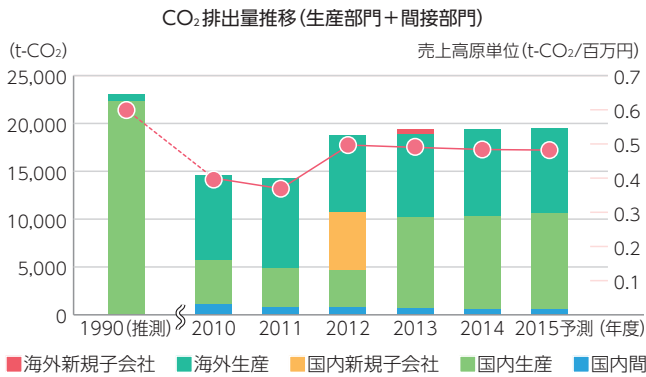
2014年度
事業活動に伴う環境負荷全体像



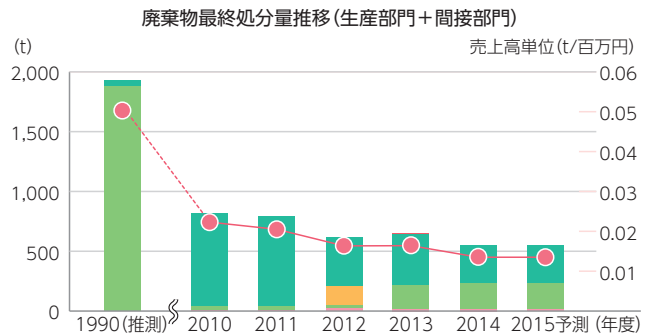
「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出算定に関する基本ガイドライン Ver2.1」(環境省・経済産業省)に準拠

主要な環境負荷の推移

●主要な環境負荷の推移



※二酸化炭素排出係数は2012年度まで活動成果の指標とするため、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」(平成18年経済産業省・環境省令第3号)に定めるデフォルト値(0.000555t-CO₂/kWh)に固定していましたが、2014年度よりCDP気候変動質問書への回答開始に伴い、各燃料および電力の排出係数を毎年再確認することにしました。これに伴い2013年度に報告しましたCO₂排出データを修正しました。(2013年度2014年度: 0.000551 t-CO₂/kWh)



環境負荷低減事例

生産関係会社では、合理化・原価低減テーマから環境効果を積み上げ、目標値を設定しています。2014年度効果があつたテーマ、2014年度に導入し今後大きな効果が見込ま

れるテーマについて、(株)バルカー・エフエフティ長崎工場の事例を紹介いたします。

2014年度効果があつた施策

■省エネベルトによるモーター負荷低減

モーター駆動のVベルトをノッチ加工付き品へ変更し、曲げ応力による損失トルクを削減。

年間節電効果: 231,480kWh

2014年度導入更新した設備

■冷熱源設備、蒸気熱源設備の改良

①冷熱源設備の省エネルギー化

- ・熱回収水冷チラー (高効率かつ廃熱温水が利用可) の導入
- ・排熱回収設備への切り替え (外調機の蒸気コイル、再熱コイル、純水加熱設備の温水化)

②高効率蒸気ボイラへの更新

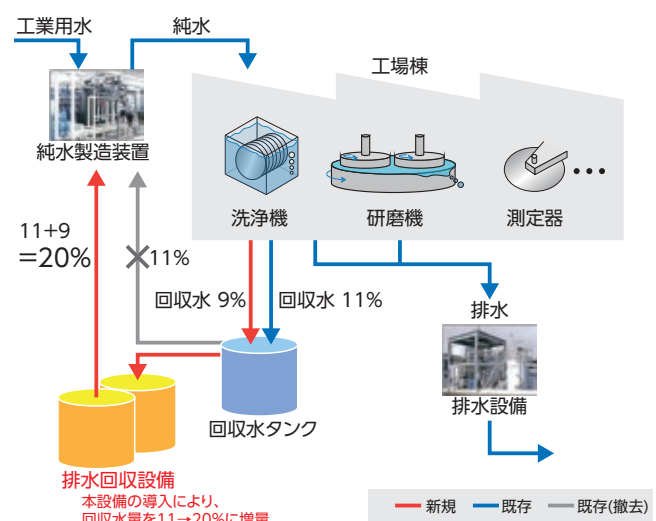
- ・貫流式蒸気ボイラ (エコマイザー付) の導入

①②の施策により原油換算で217kl/年(10%)の省エネルギー効果を見込む。

■排水回収設備導入

純水製造過程にて再利用していた排水回収の割合を約11%から約20%に増量し、純水製造における工業用水の使用量削減、加温に必要なエネルギー削減を見込む。

●排水回収設備の導入



安全・品質への取り組み

バルカーグループは、お客さまに安心で安全な製品・サービスを提供するため、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」の『4つの品質』を継続的に向上させるべく、さまざまな活動に取り組み、日々改善に努めています。

また、「安全衛生は全てに優先」との行動指針に基づき、安全ならびに衛生的な操業を行うための取り組みを徹底しています。

品質保証体制と方針

グローバルな品質保証体制の一環として、グループ全体の品質全般を統括する「グループ品質保証委員会」を組織しています。メンバーは、国内外の生産子会社や販売子会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発、経営管理、人材開発など、品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に関して責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

バルカーグループは、「品質方針」に基づいて関連する法規制を遵守するとともに、お客さまの要求に合致した品質で安全な製品とサービスを提供するため、組織ならびに社員一人ひとりが具体的目標を掲げ品質向上活動に取り組んでいます。

バルカーグループの品質方針

「THE VALQUA WAY」に基づき、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させ、「顧客接点の品質」「製品の品質」を保証する

〈4つの品質〉

- 製品とサービスの品質
- 製品とサービスをつくりだすプロセスの品質
- 製品とサービスをつくりだす組織の品質
- 組織を構成する人の品質

品質マネジメントシステムの運営

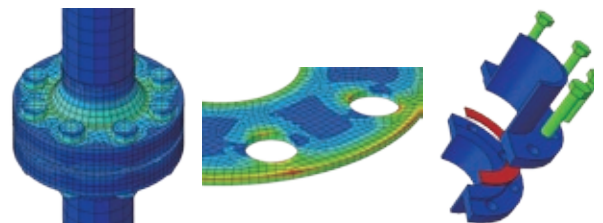
従来の生産子会社での認証取得に加え、営業部門を対象としてISO9001の認定を取得しています。これにより、グループをあげて業務品質の一層の向上を図っています。また、さらなる品質強化のために内部監査を積極的に展開するとともに、事業部門の品質管理部が生産子会社および製造委託協力会社に対して指導・監査を実施し、品質レベルの向上につなげるべく活動を推進しています。

次世代評価技術による安心・安全の提供

シール製品を使用するお客さまの使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、これまで現実的に非常に難しいものでありました。この困難な課題に対して、FEA※を用いてお客さまの使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。この取り組みにより、これまで困難であった大口径装置、高温や高圧条件の検証が可能となり、お客さまにおける漏えいや破壊など、シール製品における不具合の原因究明や再発防止のための設計提案を行っています。今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安心・安全に貢献していきます。

※FEA：有限要素解析

●三次元解析



バルカーグループ安全衛生の日

5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、海外を含めたグループの全ての生産拠点、オフィスで安全衛生大会を開催しています。



安全祈願 (M・R・Tセンター)



安全衛生憲章唱和
(バルカーベトナム)

バルカーグループ安全衛生憲章

バルカーグループは「安全衛生は全てに優先」することをグループ全員の共通認識とし、一人ひとりの自覚と責任のもと、グループ一丸となって安全衛生活動に取り組む

バルカーグループ安全衛生方針

安全衛生憲章に基づき次の方針を定め、現場においては、安全衛生活動を実践する

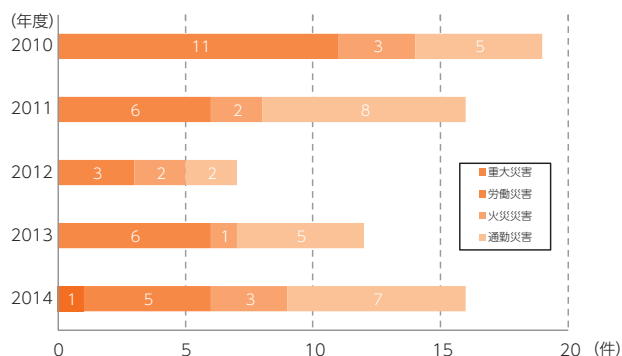
- ① 5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、大会を実施し、社員の安全衛生に対する意識の高揚および、無災害と心身の健康維持に向けての活動の起点とする
- ② グループの安全衛生に関わる管理体制の強化、維持向上を図る
- ③ 安全衛生を確保するため、関係法令・社内の規則などを遵守するとともに、問題意識を持って迅速かつ的確な改善を行う
- ④ 徹底した教育訓練のもと、安全衛生に関するリスクの低減に努める

安全衛生推進活動

2014年度は海外子会社で機器清掃中に重大災害が1件発生しました。このような重大災害の再発防止のため、リスクアセスメントならびにセーフティアセスメントによる予兆管理を徹底することにより、災害につながるリスクの発見・予防に努めるとともに、安全教育・訓練およびハードでの防御対策を実施し重大災害ゼロを目標とした活動を推進します。

また、衛生・健康管理の啓蒙活動ならびに従業員の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりを積極的に推進しています。

●災害発生件数



労働安全衛生の確保

～安全で衛生的な職場環境を維持～

①安全衛生意識の向上

安全衛生意識を根付かせるため、朝礼時の唱和および注意喚起を行い、定期的にビデオ教材などによる安全衛生教育を実施しています。

②安全衛生パトロール・ヒヤリハット提案活動

安全衛生委員によるパトロールを実施し、不安全作業や不安全箇所の抽出と対策、全員参加型のヒヤリハット提案活動による災害防止の意識の高揚を図っています。

③アセスメント活動

生産現場および安全リスクのある部門を対象に、リスクアセスメントおよびセーフティアセスメントを実施し、優先度に従って安全対策を実施する活動を行っています。

④法令順守の徹底

職場環境（安全・衛生）関係法規の周知と統制強化を図り、安全衛生体制に基づき、各事業所の責任者を明確化し、組織的に活動推進する体制を整備しています。

従業員の健康づくり

～従業員の心身の健康維持のために～

①作業環境の管理

作業環境測定の実施と法令周知および遵守の徹底をはじめ、トイレなどの衛生管理を含めた、健全で健康的な作業環境を維持するための活動を行っています。

②健康診断の実施

海外駐在者の帰国時健康検査を含め受診率は100%となっています。

③インフルエンザ対策

予防接種の奨励や感染予防策により、グループ全体で感染者の低減に努めています。

④喫煙対策

社会的にも禁煙への気運が高まる中、健康リスクの低下を目指して、禁煙啓蒙活動を行っています。

⑤メンタルヘルスケア

ストレスマネジメント検査が行える専門サイトを開設し、定期的な検査を継続して実施しています。また、相談窓口を設置し、相談やカウンセリングを気軽に受けられる環境を整えています。

⑥運動・スポーツの推奨

身体活動・運動に対する意識向上を図り、運動習慣をもつことを推奨しています。

社会貢献活動

バルカーグループは、社会を構成する一員としての責任を果たすべく、グローバルな視点で、地域に根ざした貢献活動を積極的に推進しています。より豊かな地域社会を築き、世界中の人々と感動を分かち合うために私たちは何ができるかを、私たちを取り巻くすべての人々とともに考え、自ら進んで行動していくことを推奨しています。

世界中で取り組む社会貢献活動 「バルカー感謝の日」

毎年秋の休日を「バルカー感謝の日」と定め、世界中のグループ会社の各事業所・拠点で、地域周辺の清掃や募金活動など、地域への貢献を目的としたボランティア活動を行っています。2014年度は、36ヶ所、総勢1,839人で活動を行いました。

2015年度は、地域に根付き感謝される奉仕活動を実践、継続していくために、改めて地域社会の要望を確認し、活動を見直しています。本社である大崎事業所では、毎年秋の活動を毎月の地域清掃と年2回の花植え作業に見直し、計画しています。



バルカーアメリカ
バラ園での除草、植え付け



タイバルカー
孤児院慰問、募金寄贈



バルカーベトナム
街頭募金、養護施設への寄付



バルカーコリア
地域清掃



台湾バルカー国際
地域清掃



大崎事業所
花の植栽

震災復興支援や 障がい者自立支援活動

不要となった書籍・CD・DVD・ゲームや廃棄される古紙を回収し、各NPO法人に寄付する活動を行っています。

その収益金や買い取り額は、東北3県(岩手・宮城・福島)の被災地を走る移動図書館の本の購入費用および障がい者自立の支援に役立てられています。



古紙回収作業

ユニセフ募金活動

世界中の子どもたちの健やかな成長を願って、国内外でユニセフを通じた世界の子どもたちへの支援活動を続けています。募金箱の職場回覧や社内チャリティーバザーの実施、自動販売機のおつりを募金するなど、募金活動の活性化を図っています。

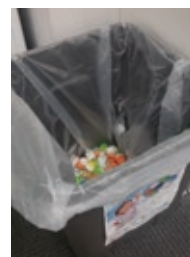


社内チャリティーバザー

おつり募金

エコキャップ回収活動

ペットボトルのキャップを分別回収し、NPO法人エコキャップ推進協会に寄付することで世界の子どもたちにポリワックチンを贈るという活動を行っています。キャップ860個(2kg)で子ども1人のポリワックチン購入に充てられます。環境負荷低減と社会貢献の2つのメリットがあり、2011年から継続して活動しています。



古切手回収活動

古切手を集めて、福祉団体「国際協力NGOジョイセフ」および「誕生日ありがとう運動本部」へ寄付する活動を行っています。福祉団体は古切手を金券ショップ・外国観光土産店・バザーなどで販売・換金して、「東日本大震災被災者女性の命と健康を守るための活動」および「知的ハンディーキャップ問題の社会啓発資金」に役立てています。



ボランティア活動の推進

活動情報の共有とCSRの社内浸透を目的として、総務部が中心となって「ボランティア活動報告書」を定期的に制作し、社内イントラネットで公開しています。

また、地域に根付いた活動として個人が行っているボランティア情報を紹介し、人とのふれあいを大切にしながら活動を広げています。

知的障がい者の社会的自立支援※

レクリエーションや体験学習のサポートをしながら、個性の違う子どもたちとふれあい、より楽しく、元気な生活を支援しています(品川区育成会運動会)。

地域イベントへの参加

地域のお祭りイベントのスタッフとして、住民とふれあうボランティア活動に参加しています。

※地域との連携

大崎事業所では、「品川区社会福祉協議会」「しながわCSR推進協議会」に加入して各種活動への参画を進めています。また、各社との情報交換を通じて得られるさまざまなボランティア活動情報を社内に展開して、自主的で積極的な活動を推進しています。



品川区育成会運動会



地域イベントへの参加

日本語ボランティアチューター

日本に留学、在住している外国人とふれあい、日本語で会話することで、日本の習慣や考え方を伝え、慣れない日本での生活の相談相手となる活動に参加しています。

スポーツ振興支援 (ボールルームダンス支援)

人々の心に多くの感動を生み出すスポーツの振興と発展を応援するバルカーは、生涯スポーツとして幅広い世代に親しまれている「ボールルームダンス」への支援を行っています。

未来を担う子どもたちの健全な成長を応援し、世界に羽ばたく選手の育成のため、毎年8月に開催されるジュニア・ユース世代の全国選手権大会を協賛しています。

その活動をさらに進化拡大させるべく、毎年11月3日(祝日)に開催され、世界選手権大会の日本代表選考会でもある「統一全日本ダンス選手権」の冠スポンサーとなりました。「バルカーカップ 統一全日本ダンス選手権」では運営面でも支援を行い、役員・社員合わせて57名のバルカースタッフがお客さまや選手へのおもてなしを体験することで、この機会に得られたおもてなしの精神を“顧客視点”の事業へ活かす試みを実施しています。

これからも、長期的な視野でボールルームダンスの普及をとおして、健全な人づくり、健全な社会づくりへ貢献していきます。



ジュニア入賞者への副賞授与



バルカーカップ統一全日本ダンス選手権



バルカースタッフによるバルカーカップ準備委員会

CSR マネジメント体制

バルカーグループは、経営理念の一つである「正正堂堂と」を社員一人ひとりが強く意識し、法令遵守と企業倫理を尊重した取り組みを徹底しています。

また、経営システムや制度を常に見直し、透明・公正な企業活動に努めています。

コーポレートガバナンス

企業理念である『THE VALQUA WAY』のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

取締役会

執行役員制度を導入し、取締役会と執行役員の役割を分離したグループ経営体制を確立しています。取締役会はグループ全体の意思決定および監督機関と位置付け、執行役員は取締役会が決定した経営方針・戦略に従い業務遂行の責任を負っています。なお、現取締役会は、取締役4名(うち社外取締役1名)によって構成されています。

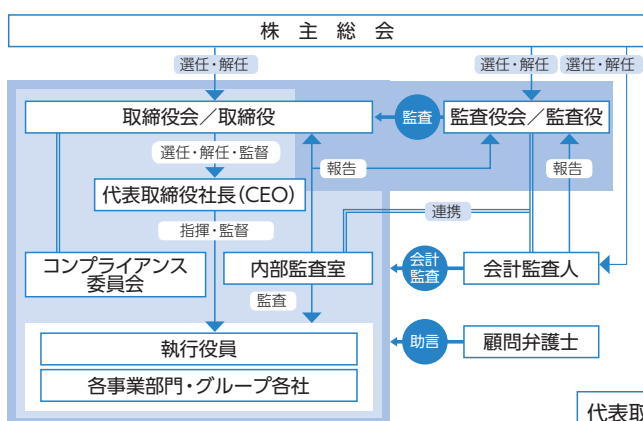
監査役会

監査役は、取締役会、常務会、その他重要な会議に出席するほか、重要な決裁書類の閲覧などにより、取締役および執行役員の業務執行につき監査を行い、経営に対する監視、監督機能を果たしています。また、監査役は、会計監査人および内部監査室と積極的に情報交換を行っており、それぞれの監査機能の実行性を高めています。なお、現監査役会は、常勤監査役1名、非常勤監査役3名(内、社外監査役2名)の4名で構成されています。

内部監査

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価、提言を行っています。

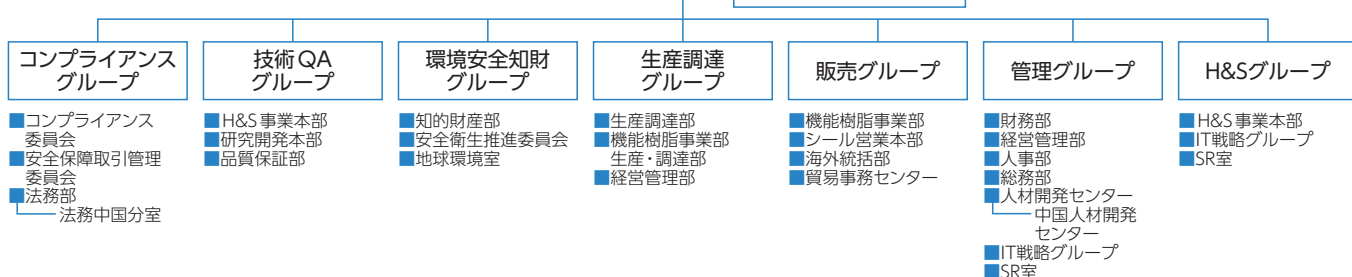
コーポレートガバナンス体制図



CSR活動推進体制

積極的かつ確実な実行を担保するため、CSRコンセプトに基づく活動をラインに取り込み、推進責任を明確化しています。また、CSR活動全体の整合性を確保し、横展開を促進するため、“CSR協議会”を設け、グループ内の各組織が連携して活動テーマに取り組んでいます。

CSR推進体制



内部統制

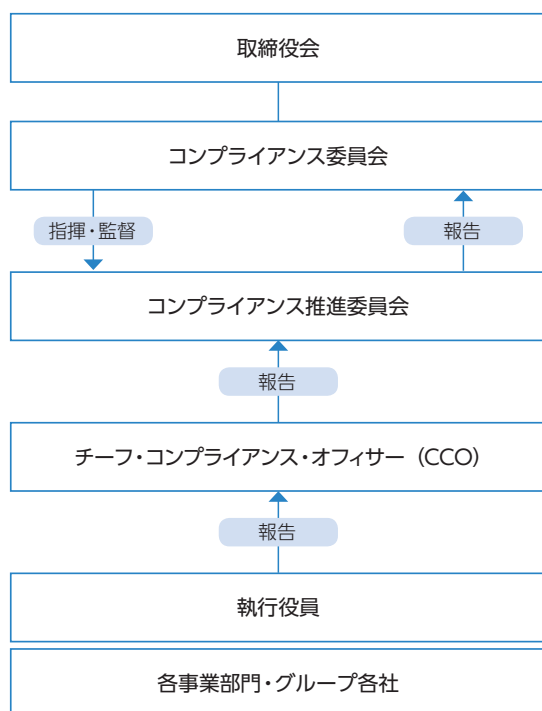
透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備、推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容については外部環境、内部環境の変化に応じて適宜見直しを行っています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規程や業務プロセスの整備、評価、改善を行っています。2014年度においては、財務報告は有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を得たうえで開示しました。今後も財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続します。

コンプライアンス

企業理念である『THE VALQUA WAY』に基づく行動指針として『コンプライアンス遵守と誠実な行動』を定め、全グループ社員が常にこれに従って行動することを求めています。

■コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）」を中心にグループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。



■報告・相談・通報ルート

社員が法令や社内規則違反などを報告し、相談し、通報できる仕組みとして、社外の弁護士に直接通報・相談できる通報制度と、外部委託機関が運営する「企業倫理ホットライン」（日本語、英語、中国語、韓国語対応）を設けています。さらに、「意見箱」の設置や、経営トップ（CEO）と直接コミュニケーションできるツールとして「CEOダイレクトライン」を設置するなど、複数の報告・相談・通報ルートを設けています。これらの制度については、通常の指揮命令系統から独立して運営されており、情報が秘匿され、また報告・相談・通報したことによって社員に不利益が課せられることのないよう運用されています。

■社員教育

法務部および外部講師によるコンプライアンスセミナーを、新人から管理職まで階層別に毎年実施し、海外展開の加速に合わせたグローバルなコンプライアンス教育にも力を入れています。

また、職場ごとにコンプライアンス推進責任者を任命しており、職場単位での自主的なコンプライアンス推進活動に取り組んでいます。

その他、コンプライアンスに係る身近でタイムリーな話題を取り上げたリーガルニュースを毎月発行し、社員への啓発を図っています。

リスクマネジメント

事業活動を遂行するうえで生じうるリスクを的確に把握し、リスクの発生を低下させるとともに、発生した場合でもその損失を最小限に止め、事業の継続性・安定性を図るリスク管理体制を構築しています。

■業務リスク管理体制

グループ全体でリスク管理体制の構築に努めており、リスクの顕在化を防止するとともに、万一リスクが顕在化した場合に損失を最小化するための施策を予め講じ、早期に復旧するための基本対応手順・対策・報告体制を整備しています。

■中国リスク管理委員会

中国事業におけるリスクに特化した管理体制を構築するため「中国リスク管理委員会」を設け、中国特有の事業リスクを評価し、分析を行い、重要なリスクについては必要な対策を施すなど、リスク低減に努めています。

会社概要

日本バルカー工業株式会社

本社 …………… 〒141-6024
東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

創業 …………… 昭和2年1月21日

設立 …………… 昭和7年4月8日

資本金 …………… 13,957百万円

上場証券取引所… 東京証券取引所市場第一部

従業員数 …………… 423名(グループでは1,576名) <2015年9月30日現在>

事業内容 …………… 産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売



国内ネットワーク

● 本社(大崎事業所)

〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower 24F
TEL(03)5434-7370 FAX(03)5436-0560

● 事業所

大阪事業所
〒550-0002
大阪府大阪市西区江戸堀1-25-15 バルカー大阪ビル
TEL(06)6443-5221 FAX(06)6448-1019

奈良事業所
〒637-0014
奈良県五條市住川町 テクノパーク・なら工業団地5-2
TEL(0747)26-3330 FAX(0747)26-3340

● 製造・研究開発・人材開発

M・R・Tセンター
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘2-2-2
TEL(042)798-6770 FAX(042)798-1040

● 営業所

札幌営業所	仙台営業所	日立営業所	京浜営業所
豊田営業所	名古屋営業所	北陸営業所	岡山営業所
中国営業所	周南営業所	松山営業所	北九州営業所
長崎営業所			

● 駐在所

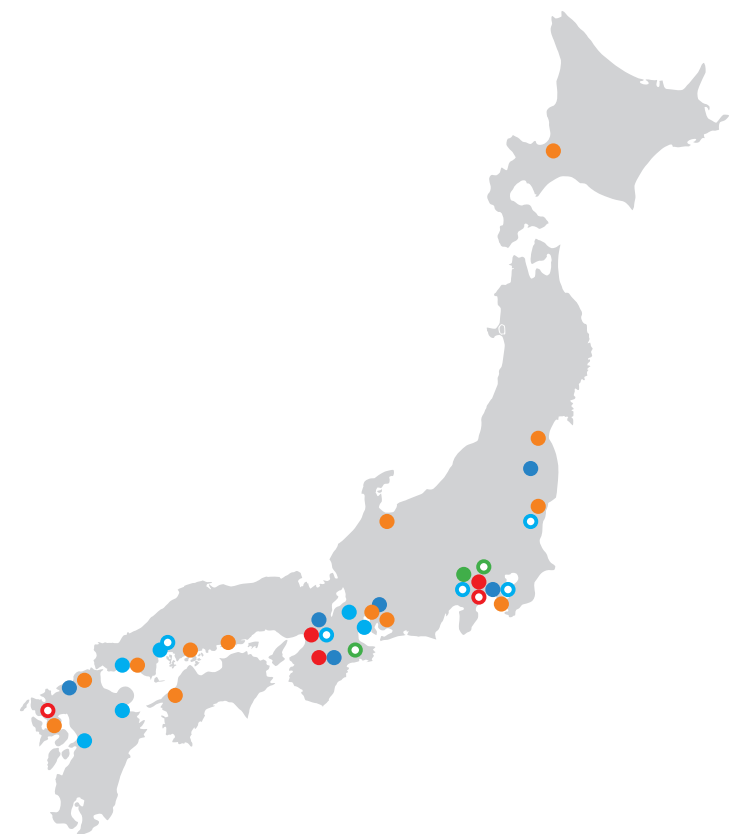
四日市/彦根/広島/宇部/大分/熊本

○ 販売拠点

株式会社バルカーエスイーエス(千葉/茨城)
株式会社バルカーテクノ(東京/大阪/広島)
バルカー・ガーロック・ジャパン株式会社(東京)
バルメイ株式会社(東京)

● 研究開発拠点

日本バルカー工業株式会社(東京/奈良)



● 製造拠点

株式会社バルカー シール ソリューションズ(奈良)
株式会社バルカーエラストマー(福島)
バルカーセイキ株式会社(愛知)
九州バルカー株式会社(福岡)
バルカー・イイダテクノロジー株式会社(大阪/千葉)

○ 販売・製造拠点

株式会社バルカー・エフエフティ(東京/長崎)

海外ネットワーク

- 中国
SHANGHAI VALQUA FLUOROCARBON PRODUCTS CO.,LTD.
VALQUA SEAL PRODUCTS (SHANGHAI) CO.,LTD.
VALQUA(SHANGHAI)TRADING CO.,LTD.
- 研究開発・人材開発拠点
VALQUA CHINA RESEARCH INSTITUTE
CHINA HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT CENTER
- 韓国
VALQUA KOREA CO.,LTD.
HEAD OFFICE
ULSAN OFFICE
PYEONGTAEK FACTORY
- アメリカ
VALQUA AMERICA,INC.
- 台湾
TAIWAN VALQUA INDUSTRIES,LTD.
TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL,LTD.
HEAD OFFICE
HSINCHU OFFICE
KAOHSIUNG FACTORY
- タイ
VALQUA INDUSTRIES (THAILAND),LTD.
HEAD OFFICE
BANGPOO FACTORY
RAYONG FACTORY
- シンガポール
VALQUA INDUSTRIES (THAILAND),LTD.
SINGAPORE BRANCH
- ベトナム
VALQUA VIETNAM CO., LTD.
HEAD OFFICE
HAI DUONG FACTORY
HANOI BRANCH



“現代ガスケット概論”刊行

ガスケットとボルト締めフランジ継手の技術的基礎を
わかり易く説明した初めての『ガスケット解説書』

近年のさまざまな環境規制に伴い、ガスケットの種類およびその材料は大きく変容し、ボルト締めフランジ継手の設計基準にも大きな動きが見られます。そうした技術的情况を受け、JIS規格“パッキン及びガスケット用語”も37年ぶりに全面改正されました。

このほど刊行いたしました“現代ガスケット概論”は、JIS用語規格改正に至った技術的背景をたどるとともに、ガスケットとボルト締めフランジ継手の技術的基礎をわかり易く説明した初めての“ガスケット解説書”と言えるもので、ガスケットにかかわる多くの方々にご参考いただける内容となっています。

著者……………日本バルカー工業株式会社
シニアフェロー 西田 隆仁



お問い合わせ先
SR室
Email: sr@valqua.co.jp
TEL 03-5434-7372
FAX 03-5434-0560

対象期間

2014年4月～2015年3月
(報告の一部に2015年4月以降
の活動と取り組み内容も含まれます)

対象範囲

日本バルカー工業株式会社および
グループ会社

発行

2016年2月



Value & Quality

VALQUA GROUP CSR REPORT 2015

〔表紙について〕

バルカーグループは、シールエンジニアリングを通じて
安心・安全な社会づくりを目指しています。

企業としての責任を果たし、地球環境を守ること、
子どもたちの夢いっぱい未来を大切にしたい。

その思いを込めて、グループ社員の子どもの笑顔で表紙を飾りました。

VALQUA 日本バルカー工業株式会社

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower24階
URL <http://www.valqua.co.jp>
お問い合わせ先：SR室 TEL 03-5434-7372 FAX 03-5436-0560

